

# 学芸員とめぐる戦争のつめ痕—名古屋城界限—を開催しました。



案内人の木村有作学芸員

令和5年11月25日(土)大人気のウォーキングイベント「学芸員とめぐる戦争のつめ痕」が開催！今回で7回目となりました。

さわやかな秋晴れのもと、愛知・名古屋 戦争に関する資料館の企画展示「名古屋城はなぜ、どのようにして焼けたのか」を見学した後、資料館周辺に残る戦争遺跡をたどりながら名古屋城まで歩きました。

参加者からは、「とても面白くて本当に良かったです。」「前に見て、気づかなかったものがあり、とても興味深かったです。」などといったお声をいただき、主催者一同、嬉しく思っております。今回のイベントが、身近にある戦争のつめ痕に気づくなど違った視点で街歩きをするきっかけになれば幸いです。

## <ツアーの様子>



名古屋市役所本庁舎。よく知られている建物にも戦争のつめ痕が残っています。



名古屋城の周辺にはたくさんの碑が立っています。



秋晴れの名古屋城です。



中には、年月とともに木に飲み込まれようとしているものもあります。



名古屋城の天守は、昭和20年5月14日の空襲で焼け落ちました。建物は再建されましたが、今も石垣が赤黒く変色し、ひび割れが残っています。当資料館にパネルが展示されています。



名古屋城天守閣の礎石も熱で赤黒く変色し、ひび割れが残っています。



亀が・・・  
探してみてね。



明治時代に弾薬庫として作られた乃木倉庫は、万が一の爆発の際には爆風が上方へ抜けるよう、壁が煉瓦造り、屋根小屋組みが木造になっています。



床下は掘り下げられ、風通しが良くなっています。



門の瓦葺屋根に亀を発見！  
熱田には蓬萊島の伝説があり、“蓬萊島は亀の甲に乗っていて、その尾の位置に名古屋城がある”という言い伝えに関係があるとのこと。  
名古屋城には「亀尾城」の別名もあります。



「忠霊」碑は、かつて栄螺山の頂にあり、少し窪んだ参詣道があります。

V字型の切れ込みは、戦時中に松脂を取った跡です。物資欠乏の折、代用燃料として期待されたもので、名古屋城周辺の松のいくつかにも採取の痕跡が見られます。



<今回歩いたルート>

★愛知・名古屋  
戦争に関する資料館

①日本政府境界柱1  
▼  
②「忠霊」碑  
▼  
③防空庁舎建設時の廃土  
▼  
④日本政府境界柱2  
▼  
⑤陸軍営内神社跡  
▼  
⑥第三師団の煉瓦塀  
▼  
⑦「勅諭下賜○○」碑  
▼  
⑧戦災にあったカヤ・ムクノキ  
▼  
⑨乃木倉庫  
▼  
⑩天守閣の礎石や石垣  
▼  
⑪「忠霊」碑のあった栄螺山、  
手水鉢、将校集会所跡  
二之丸庭園

愛知・名古屋  
戦争に関する資料館

愛知・名古屋 戦争に関する資料館は、年間を通してこの地域の戦争のことが学べる展示を行っています。現在は、企画展示「名古屋城はなぜ、どのようにして焼けたのか」を開催しています。（開催中～令和6年3月10日まで）  
どうぞ皆様のご来館を心よりお待ちしております。



当資料館のアドバイザー伊藤厚史先生が監修されました「ガイドマップ 愛知・名古屋 戦争のつめあと散歩」を当資料館で配布しています。また、当資料館のホームページからダウンロード出来ますので、ぜひご利用ください。  
ダウンロードは[こちら](#)から。  
名古屋城に行く際、マップの1枚としてどうぞ！